

平成22年4月15日開催

調 査

経済福祉常任委員会資料

○調査事件1 ナマコ稚仔放流事業について

産業課水産グループ

調査事件1 ナマコ稚仔放流事業について

1 前回所管調査の課題

(1) ナマコ稚仔購入先の生産体制等の状況について

ナマコ稚仔の購入については、上ノ国町の民間会社より購入を予定しており、生産体制等の状況については次のとおりであります。

- ① 親ナマコの産地 上ノ国町を中心とした松山産親ナマコを使用
- ② 親の再使用 なし（産卵が終わった後は加工向けとしている）
- ③ 産卵誘発について

生殖巣刺激ホルモン「クビフリン」は使用しておらず自然産卵による採苗を行っています。

④ 現在飼育中のナマコ稚仔について

上記のとおり、民間業者で飼育しているナマコ稚仔は上ノ国町を中心とした松山産の親ナマコから平成21年9月に産卵誘発を行わずに、採苗したものであります。

浮遊幼生期間中は、植物性プランクトン「キートセラスグラシリス」を与え約15日間でプランクトンネットや、ポリカーボネット製の波板に沈着させ、その後中間育成を行います。

中間育成中の稚ナマコは、30tコンクリート水槽で飼育し、餌として、中国産モク類のウミノトラノオ等の乾燥粉末を、海水に溶いて毎日成長に合わせて給餌しております。

⑤ 稚仔の提供先

単位：個

年 度	ひやま漁協 上ノ国支所	ひやま漁協上ノ国 支部ナマコ部会	松 前 町	福 島 町
21年度（実績）	10,000	30,000	1,500	5,000
22年度（予定）	200,000	—	30,000	50,000

(2) 白符・浦和漁港放流予定箇所の現状について

平成22年3月22日の漁業協同組合理事会で、町が予定する放流事業に対し放流箇所を白符漁港と浦和漁港とし、各々25,000個を放流予定です。

① 白符漁港

沖に向かって、福島側の防波堤内側は、陸側から80mは5m幅で根固ブロックがあり、その先岸壁終点までの40mは大割石で根固め

ブロックを覆っております。

陸側物揚げ岸壁は福島側30m、幅約5mは転石であり、残り吉岡側46mは細砂及び泥であります。

吉岡側防波堤80mの内側は、傾斜した根固めブロックが5m幅で続き、細砂及び泥が覆いアマモが生息しております。

南防波堤内側は、吉岡側から30m幅20mで消波ブロックが設置され、それ以降福島側120mの底質は砂となっております。

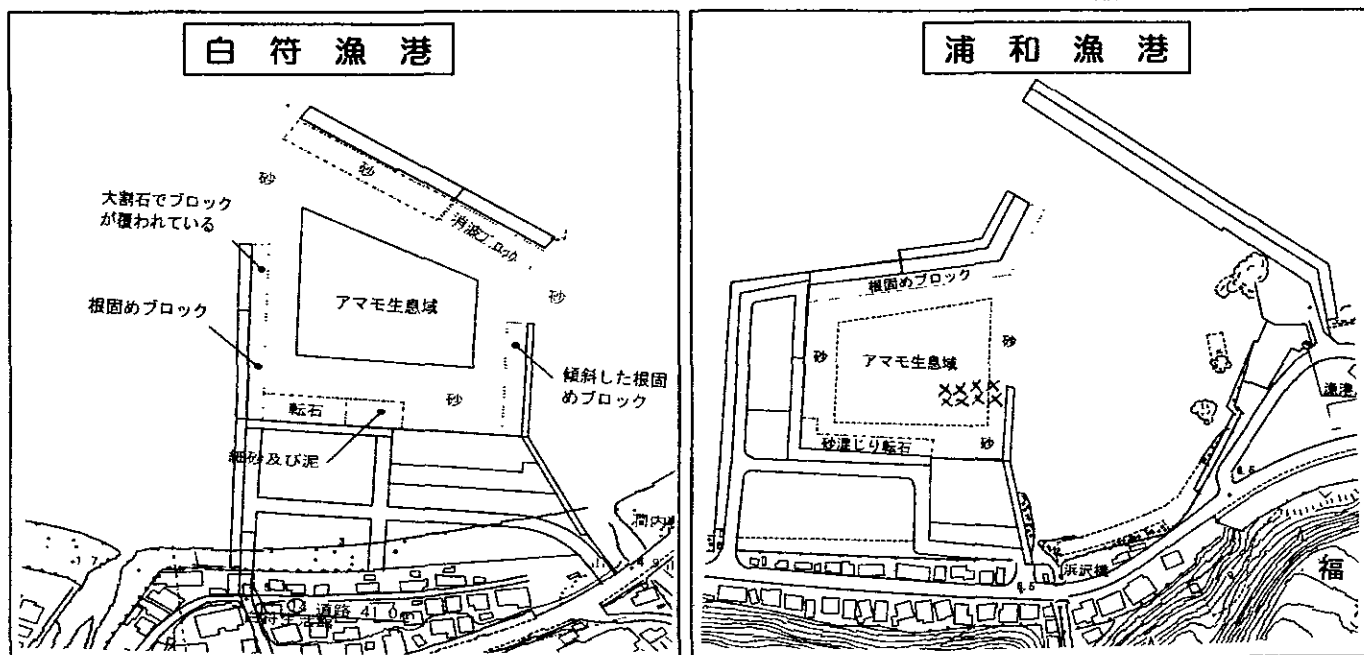
港内は岸壁から約10m離れると砂地となり、アマモが生息しています。

② 浦和漁港

陸側岸壁72mと岩部側の岸壁内側8mは、約3.5m幅で砂混じりの転石となっており、沖の防波堤の内側は、先端まで5m幅で根固めブロックとなっております。

港内は岸壁から約10m離れると、白符漁港同様砂地となり、アマモが生息しています。

縮尺：free



2 当町のナマコ産卵時期について

平成19年度から平成21年度までの3年間の調査結果において、生殖巣指数が最大となる時期は、8月下旬となっております。このようなことから当町のナマコの産卵期は8月下旬から9月中旬を想定しております。なお、桧山海域の産卵期は、奥尻町で8月上旬から9月上旬と報告されています。

3. 事業概要について

事業の概要については、ナマコ稚仔購入の他に人工採苗及び天然採苗試験調査を行い、今後の事業化安定向上を目的に実施するものです。

(1) 事業費・管理費について

単位：円

区 分	町 負 担 分			漁協負担分 (管理費)	総事業
	ナマコ稚仔購入費	採苗試験費	小 計		
平成 22 年度	2,625,000	318,000	2,943,000	481,000	3,424,000
平成 23 年度	2,625,000	318,000	2,943,000	481,000	3,424,000
合 計	5,250,000	636,000	5,886,000	962,000	6,848,000

① ナマコ稚仔購入費

ナマコ稚仔については、平成 22 年度 50,000 個、平成 23 年度 50,000 個の稚仔を購入し放流予定です。

(ア) 放流予定箇所

平成 22 年度 白符漁港 (25,000 個)、浦和漁港 (25,000 個)。

(イ) 発注時期 5 月

(ウ) 放流時期 6 月上旬

(エ) ナマコ稚仔購入費

単位：円

年 度	稚仔購入費	備 考
平成 22 年度	2,625,000	稚仔 50,000 個×@50 円×1.05=2,625,000
平成 23 年度	2,625,000	稚仔 50,000 個×@50 円×1.05=2,625,000
合 計	5,250,000	

② 採苗試験費

(ア) 人工採苗試験調査

漁業協同組合より親ナマコの提供を受け、人工採苗し、その技術を持ってその活用促進を図って行くものであります。

(a) 実施時期 8 月下旬から 9 月上旬

(b) 試験期間 約 14 日間

(c) 実施場所 知内町広域種苗生産育成センター

(d) 試験調査費

単位：円

項目	金額	備考
ダイバー料	46,200	@46,200×1人×1回=46,200
傭船料	20,000	@20,000×1隻×1回=20,000
幼生飼育餌料	4,500	キートセラスグラシリス @1,500×30=4,500
合計	70,700	

(イ) 天然採苗試験調査

簡便安価な方法であり、組合員の協力を得やすく健苗な採苗が期待できる。

8月上旬から11月下旬まで福島町地先のコンブ養殖施設などに、ホタテ養殖用フトン籠に玉ねぎ袋に詰めたネトロンネットを入れ、水深ごとにナマコ稚仔沈着状況の調査を実施します。

(a) 実施時期 8月上旬から11月下旬

(b) 実施場所 コンブ養殖施設（福島地区5箇所、吉岡地区5箇所）

(c) 試験調査費

単位：円

項目	金額	備考
傭船料	120,000	@20,000×1隻×6回=120,000
ホタテ養殖用布団費	25,000	@2,500×10籠=25,000
ネトロンネット	12,000	@60×200枚=12,000
ロープ	20,000	@20,000×1巻=20,000
タマネギ袋	10,000	@200×50枚=10,000
消耗品費	60,300	調査消耗品
合計	247,300	

③ 管理費（漁業協同組合負担）

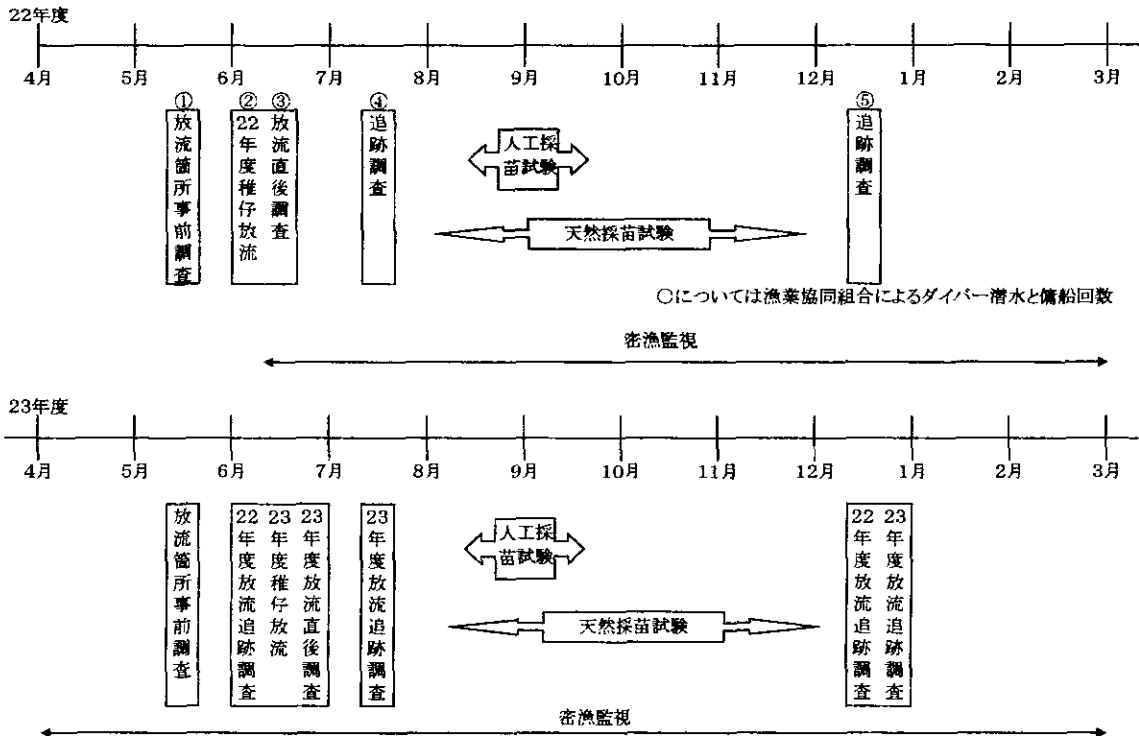
単位：円

年度	調査費	密漁監視費	合計
平成22年度	331,000	150,000	481,000
平成23年度	331,000	150,000	481,000
合計	662,000	300,000	962,000

管理費内訳

項 目		回 数	単価	金額	備考
22 年度	調査費	ダイバー代	5回×1人	46,200	231,000
		備船料	5回×1隻	20,000	100,000
		小 計			331,000
	密漁監視費	一 式		150,000	
	合 計			481,000	
23 年度	調査費	ダイバー代	5回×1人	46,200	231,000
		備船料	5回×1隻	20,000	100,000
		小 計			331,000
	密漁監視費	一 式		150,000	
	合 計			481,000	

(2) 事業行程表



4 電源立地地域対策交付金について

当該交付金は、従来の電源地域産業育成支援事業の制度が変更となり、今年度から新たに国から北海道へ移行され電源立地地域対策交付金（電力移出県等交付金相当分）が発電施設周辺市町村に対し交付されます。

町では、本制度に採択される事業を検討したところ、ナマコ稚仔放流事業が当該交付金の地場産業支援事業のメニューに合致することから本事業を実施するものであります。

財源内訳

単位：円

事業費	交付金限度額	一般財源	備考
2,943,000	2,936,000	7,000	